

ProMED-mail情報 2019年2月版

ProMED-mail <https://www.promedmail.org/> の記事から、感染症業務関係者の皆さまにピックアップ記事を紹介します。FORTH（厚生労働省検疫所の情報提供サイト <https://www.forth.go.jp/>）に掲載されるものは省略しています。

編集：厚生労働省福岡検疫所

掲載日	表題	概要
19日	食中毒 インド	2019年2月17日、バトカルタルクで多くの人々がムール貝を食べて食中毒を発病し、バトカルタルクの病院に入院。胃痛と下痢が初期症状で見られ、めまいや意識消失が見られることもあった。ムール貝の保存に使用されている化学物質がこの病気の原因であると疑われている。ムール貝はクンダプルからバトカルタルクに輸送。問題が解決するまで、タシルダールはバトカルタルクの人々にムール貝を数週間食べないように注意喚起した。
14日	麻しん タイ	保健当局は、タイにおける麻しん発生状況について2019年2月4日に47地方、613例を報告した。うち、109例の合併症と2例の死亡が記録されている。最も発生率が高い地域は、ナタティワット、パタニ、ソククラ、セラ、プッチブリ。2018年には5,000例を超える症例が報告されており、主に南部で発生している。
11日	キャサヌル森林病(KFD) インド	ソタダコッパ出身の75歳男性が、サル熱として知られるキャサヌル森林病(KFD)にて2019年2月1日死亡した。彼は数日前より熱があり、4日前よりマニパール病院に入院し、そこでKFDと診断。猿の死後、村々で猿熱の発生の報告があった。ソタダコッパだけで、6例のKFDを確認。2019年で16例の報告があった。2019年2月1日に地区保健担当官のRajesh Suragihalli博士、Kiran博士と保健局のスタッフがソタダコッパとその周辺の村を訪問し、状況を把握。
10日	流行性耳下腺炎 米国	2019年2月6日ジョージア州、ノースダコタ州、ペンシルベニア州、ユタ州、ウィスコンシン州で流行性耳下腺炎の症例が報告されている。2018年には、CDCは47の州とコロンビア特別区で2,251例の流行性耳下腺炎を確認。さらに、キャンパス内での流行が報告された大学もいくつかある。MMRWクチンにてほぼ予防されるが、MMRWクチン接種を2回することにより88%の効果を認めると報告がある。流行の原因はワクチン効果の減退と海外旅行者による輸入例が考えられる。
8日	ウエストナイル熱 ブラジル	ピアウイ州の保健省は2019年2月9日に新たなウエストナイルウイルス(WNV)感染例が州内に発生したことを確認。ピークス地区に在住の若者で、2017年に急性弛緩性筋麻痺を発症。現在はピアウイ州の大学病院にて診断され、標準的治療を受け、現在回復している。ウエストナイル熱はウイルスを有する蚊を媒介して感染。2014年ピアウイ州でウエストナイル熱患者を確認し、国内でも初めての症例であった。当時、調査では、鳥類や馬の感染も確認されている。
7日	輸入デング熱 日本	1週間前にUAE初の国内感染例と報告した2名の邦人女性の渡航先確認から、2018年12月31日から2019年1月4日の間モルディブ滞在を確認。よって感染国をモルディブに訂正。感染国の情報は自己申告だけでなく旅程表も確認する必要がある。
5日	鳥インフルエンザ 中国	中国にてヒトのH9N2型鳥インフルエンザ発症を認めた。症例は常德市の2歳男児。2018年中国では7例目。多くのH9N2型鳥インフルエンザは軽い症状で、ヒト-ヒト感染はしないとされている。インフルエンザA型(H9N2)ウイルスは、アフリカ、アジアと中東の地域の家禽にみられ、多くのヒトの症例は感染した家禽または汚染された環境との接触により、A(H9N2)ウイルスにさらされており、ウイルスは家禽集団で検出され続けているため、さらなるヒトの症例が予想される。
4日	百日咳 パナマ	パナマ保健当局に2018年12月中旬以降、ノベ・ブグレブ県において百日咳の発生が報告されている。今日までに、81例の確定症例が報告されており、その中には2歳未満の子供9名の死亡者が含まれている。保健省疫学監視省長官によると、子供たちは合併症で死亡が確認されている。
3日	中東呼吸器症候群 サウジアラビア	2019年初めからサウジアラビアで感染拡大中。最近6日間の報告ではリアト地区から新患6例を確定。一次感染3例のうち、ラクダ接触は2例。二次感染3例は、家庭内2例と病院内1例。
2日	狂犬病 フィリピン	WHOは現在、フィリピンにて偽造狂犬病ワクチン(Verorab)が出回っていると警告。偽ワクチンはNIE35とH1883である事をワクチン製造会社であるサノフィ社は確認。現時点で健康有害事象は報告されていない。フランスコ・デュケーIII保健長官は、2019年2月1日ラジオのインタビューで、保健省がWHOと調査中であり、病院や他の関係機関を訪れ、偽ワクチンの回収を行っているかと答えた。